

第3期中期計画	令和4年度実績		令和5年度計画		令和5年度計画達成状況		自己点検・評価委員会	内部質保証推進会議		
	評価区分		評価区分		評価区分					
<p>7. 学生支援</p> <p>学生支援の実施においては、「学生支援に関する基本方針」に基づき、全学が連携し総合的に実施するとともに、その適切性について定期的に点検・評価及び検証を行い、その結果を踏まえて学生支援センターの機能の充実を図る。</p> <p>【計画38】（学生支援センター） 修学支援を適切に実施する。</p> <p>「計画達成のための方策」 1. 学生に対するガイダンス機能のさらなる充実を図るとともに、学生が修学する上で必要な情報を提供し、適切な支援を行えるよう、各学科教員、事務局が緊密に連携を図る。 2. 成績優秀な学生については、本学独自のスカラシップ制度に基づき、授業料の減免措置による経済支援を行う。 3. 経済的な理由で学生が修学をあきらめることがないよう、日本学生支援機構の奨学金をはじめとした各種奨学金の情報を広く収集して確実に周知するとともに、個別事情の相談をしやすい体制を作り、適切に支援をしていく。 4. 障がいのある学生の修学等の支援は「障がい学生修学支援規程」に基づき、関係部署・教職員が連携して適切に支援する。</p> <p>「評価指標」 ・在学生アンケートの実施と満足度向上の状況</p> <p>【計画39】（学生支援センター） 生活支援を適切に実施する。</p> <p>「計画達成のための方策」 1. 心身の健康維持・増進及び安全・衛生に関する最新情報の適切な周知徹底を図るとともに、保健室においては日常的な病気・ケガの応急措置、健康相談等に適切に対処する。 2. メンタルケアの必要な学生が「学生相談室」に気軽に相談し、適切に支援できるよう、学生及び教員へのさらなる周知を図る。 3. 「ハラスメントに関する取扱細則」に基づきハラスメントに関する苦情の申し出及び相談に対して、人権倫理委員会及び相談窓口、相談員を設置して適切に対処する。合わせて学生に「ハラスメント防止のためのガイドブック」を配布する。</p>	IV	<p>1. 学生がいつでもどこでも必要な学内情報を自分のスマートフォンやPCで検索できるよう令和3年度より従来の紙冊子からWebページに変更した「キャンパスガイド」の初の年度更新を行い、提供情報の充実を図った。 2. 本学独自のスカラシップ制度に基づき合計93名（授業料全学免除36名、半額免除57名）に減免措置を行った。 3. 各事務部と緊密に連携して日本学生支援機構の奨学金利用を確実に支援した他、大学への寄附金を活用した新たな学内の奨学金制度（熊沢幸子奨学金。医療保健学部看護学科が対象）を開始した。 4. 日本学生支援機構が実施している「障がい学生実務者研修」に職員を派遣し、障がいを持つ学生の理解および支援についての知見を深めた。また9月の学内職員研修会で障がい学生支援の状況について報告し学内での情報共有を行った。 ・なお、アンケートの実施については、12月に文部科学省の「全国学生調査」が実施されることになり、そちらを実施したため学内独自のアンケートは実施せず。</p>	IV	<p>1. 年間を通してCOVID-19の陽性者、濃厚接触者が多数発生したが、各キャンパスの保健室が一次窓口となり学生からの状況聴き取りおよび出席停止指示などを的確に行った。 2. キャンパスガイド、周知カードなどで「学生相談室」の周知を図り、相当数の学生が利用した。（大学全体で延べ420件） 3. 全新生に「ハラスメント防止のためのガイドブック」を配布した。 （人権倫理委員会、相談窓口は総務人事部） 4. 学生寮においては管理委託先と緊密に連携し、設備の不具合対応を迅速に行った他、三宿寮において衛星放送視聴設備を設置するなど学生の生活環境向上に努めた。 ・なお、アンケートの実施については、12月に文部科学省の「全国学生調査」が実施されることになり、そちらを実施したため学内独自のアンケートは実施せず。 ・寮生は2022年5月に三宿寮でアンケートを実施。 （食事、食堂、インターネット環境は満足度高く、風呂、共用部の満足度が低い結果となった）</p>	III	<p>1. 学生に対するガイダンス機能の柱の1つである「キャンパスガイド・2023年度版」の更新により内容充実を図るとともに、災害発生時の緊急支援策をはじめ修学継続を支援するために必要な情報のタイムリーな提供を継続した。 2. 本学独自のスカラシップ制度に基づき、令和5年度は成績優秀な学生合計93名（全額免除37名、半額免除56名）に対して授業料の減免措置を行った。 3. 日本学生支援機構の奨学金の確実な周知に加えて、各種財団の奨学金募集情報の収集と学内イントラネットを活用した学生への周知を強化した。 4. 「障がい学生修学支援に関する基本方針」を学生の情報ツールである「キャンパスガイド」に掲載して、支援の相談をしやすいよう努めた。また「障がい学生支援」の知見を深めるためにJASSOの障害学生支援実務者研修（応用実習）に職員を派遣した。 ・「在学生アンケート」については授業関係アンケート、文科省実施アンケートなど学生アンケートが多く、学生の負担が大きくなること、有効な回答率が見込めないことから実施は見送り。</p>	III	<p>1. 保健センターと連携して新型コロナウイルス感染症対策など最新情報の適切な周知徹底を行うとともに、保健室において発熱・体調不良時の出席停止判断などを適切に対応した。 2. 「学生相談室」の案内をソフトなものに刷新し、デスクトップTOPページにリンクを貼る等、学生及び教員への周知強化を行った。 3. 「ハラスメント防止のためのガイドブック」を最新の内容に更新し、全新生全員に配布した。（ハラスメントに関する苦情の申し出及び相談対応は人権倫理委員会が行っており、総務人事部署）</p>		

第3期中期計画	評価区分	令和4年度実績	令和5年度計画	評価区分	令和5年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
<p>4. 女子学生寮（3寮、定員198名）において学生が社会性や協調性を身につけ健康で自立した学生生活を送ることができる安全、安心な環境を維持し、寮生の生活支援を適切に行う。</p> <p>「評価指標」 ・在学生アンケートの実施と満足度向上の状況</p> <p>【計画40】（学生支援センター） 進路支援を適切に実施する。</p> <p>「計画達成のための方策」 1. 学生が卒業後自らの資質を向上させ、社会的及び職業的自立を図り、幅広い職業意識の形成を図ることを目的として、社会の第一線で活躍する企業人を講師に招くなどのキャリア教育の充実と企業体験などの就職活動支援とのさらなる連携を図る。 2. 進路、就職活動に関する支援のため、個人面接、進路・就職総合ガイダンス、各種就職支援講座、先輩との交流イベント（先輩の話を聞く会、卒業生との交流会など）、病院説明会、企業研究キャリア講座の実施のほか、求人情報をはじめとする就職活動に関する各種情報提供を適切に実施し、進路選択及び就職の支援を推進する。 3. 就職先が多岐にわたる医療栄養学科、医療情報学科の学生の能力・適性を活かせる就職先採用情報を継続的に収集し学生に提供する。 4. 卒業生の就職先に対して、新入職者に対して期待する能力や入職している本学卒業生に対する評価を確認する「就職先アンケート」を継続的に実施することで、採用側が望む能力・適性等を正確に把握し、教育改善とより適切な就職支援に役立てていく。 5. 就職活動に関する情報共有や個別学生の課題対応を目的に各学部・学科の特性に応じて保護者対象の就職説明会を開催する。</p> <p>「評価指標」 ・就職希望者の就職率について、過年度生を含めて全学での就職率100%を目指す。</p>	III	<p>1. ～3. 概ね計画通り実施した。 4. 就職先アンケートは至近で21年9月に実施したため、22年度は実施せず。 5. コロナ禍もあり対面での説明会ではなく、説明資料の郵送とした。 ・22年度生（過年度生を除く）就職率：99.8%</p>	<p>4. 女子学生寮（3寮、定員198名）において学生が社会性や協調性を身につけ健康で自立した学生生活を送ることができる安全、安心な環境を維持し、寮生の生活支援を適切に行う。</p> <p>「評価指標」 ・満足度及びアンケート回収率の前年比向上の状況</p> <p>【年度計画40】 1. 学生が卒業後自らの資質を向上させ、社会的及び職業的自立を図り、幅広い職業意識の形成を図ることを目的として、社会の第一線で活躍する企業人を講師に招くなどのキャリア教育の充実と企業体験などの就職活動支援とのさらなる連携を図る。 2. 進路、就職活動に関する支援のため、個人面接、進路・就職総合ガイダンス、各種就職支援講座、先輩との交流イベント（先輩の話を聞く会、卒業生との交流会など）、病院説明会、企業研究キャリア講座の実施のほか、求人情報をはじめとする就職活動に関する各種情報提供を適切に実施し、進路選択及び就職の支援を推進する。 3. 就職先が多岐にわたる医療栄養学科、医療情報学科の学生の能力・適性を活かせる就職先採用情報を継続的に収集し学生に提供する。 4. 卒業生の就職先に対して、新入職者に対して期待する能力や入職している本学卒業生に対する評価を確認する「就職先アンケート」を継続的に実施することで、採用側が望む能力・適性等を正確に把握し、教育改善とより適切な就職支援に役立てていく。 5. 就職活動に関する情報共有や個別学生の課題対応を目的に各学部・学科の特性に応じて保護者対象の就職説明会を開催する。</p> <p>「評価指標」 ①当年度生（過年度生を除く）の就職率：100% ②全卒業生（過年度生を含む）の就職率：99.5%</p>	IV	<p>4. 女子学生寮（3寮、定員198名）の運営管理（管理業務は委託）および必要な設備更新などを適切に行い快適な寮生活の提供に努めた。 ・「在学生アンケート」については授業関係アンケート、文科省実施アンケートなど学生アンケートが多く、学生の負担が大きくなること、有効な回答率が見込めないことから実施は見送り。</p> <p>1. ～3. 概ね計画通り実施した。 4. 3年前から卒業生を輩出している千葉看護学部、和歌山看護学部卒業生の過去3年の就職先アンケートを8月に実施。回収率47%。 アンケートの分析結果を学部長等会議に報告して学内で共有するとともに大学ホームページでも公開した。 5. コロナ前以来4年ぶりに対面での保護者対象説明会を開催した（世田谷キャンパス）。 ・23年度卒業生は、当年度生（過年度生を除く）の就職率、及び全卒業生（過年度生を含む）の就職率はともに就職率100%</p>				

第3期中期計画	令和4年度実績		令和5年度計画		令和5年度計画達成状況		自己点検・評価委員会	内部質保証推進会議
	評価区分		評価区分		評価区分			
<p>【計画41】(学生支援センター) 学部卒業生への支援を適切に実施する。</p> <p>「計画達成のための方策」 1. 学部卒業生を対象とした本学ホームページ内の「卒業生相談窓口」、「住所変更・改姓届」をはじめとした卒業生サイトの拡充により、卒業生への情報発信、支援体制の整備・拡充を図ることで閲覧率の向上を図るとともに、卒業生に対しても継続して適切な支援を行っていく。 2. 学部卒業生の卒業後の状況を把握するとともに、教育課程の改善、在学生の就職支援にも役立てるべく「卒業生アンケート」を継続的に実施する。 3. 同窓会の組織運営及び会員拡充のための活動を適切に支援する。</p> <p>「評価指標」 ・卒業生アンケートの実施と回収率の向上の状況 (注) 令和2年度：22.1%</p> <p>【計画42】(学生支援センター) 保護者との連携強化を推進する。</p> <p>「計画達成のための方策」 本学後援会総会に合わせて教育懇談会を開催する。教育懇談会では、学部等における教育状況等を保護者に報告するとともに、理事長・学長等との意見交換を行う機会を設けることにより、本学の教育活動の現状を理解し協力していただくとともに、保護者との連携強化に役立てる。</p> <p>「評価指標」 ・教育懇談会の実施と出席者の状況</p> <p>【計画43】㊦(学生支援センター) 学生支援センターが担う業務や主管行事の取り組み内容等を点検・評価しつつ、継続的に改善を図る。</p> <p>「計画達成のための方策」 学生支援センター全職員が各自「改善提言」を検討し、改善計画シートを作成した上で、センターとして実行可能な提案を検討し、実行する。また、実行した取組は、次年度「評価レポート」を作成し、次年度以降の改善等に活用する。</p> <p>「評価指標」 ・改善提案、提案の実行及び次年度以降の改善の取組状況</p>	III	<p>1.～3. 概ね計画通り実施した。 ・卒業生アンケート回収率：17.7% (教員にも協力を呼び掛けて回収を図るも前年比ダウン)</p>	III	<p>【年度計画41】 1. 学部卒業生を対象とした本学ホームページ内の「卒業生相談窓口」、「住所変更・改姓届」をはじめとした卒業生サイトの拡充により、卒業生への情報発信、支援体制の整備・拡充を図ることで閲覧率の向上を図るとともに、卒業生に対しても継続して適切な支援を行っていく。 2. 学部卒業生の卒業後の状況を把握するとともに、教育課程の改善、在学生の就職支援にも役立てるべく「卒業生アンケート」を継続的に実施する。 3. 同窓会の組織運営及び会員拡充のための活動を適切に支援する。</p> <p>「評価指標」 ・卒業生アンケート回収率の前年度比向上の状況 (注) 令和2年度：22.1%</p>	III	<p>1.～3. 概ね計画通り実施した。 3. 同窓会ではコロナ禍前以来4年ぶりに対面での総会を大学祭に合わせて開催し、卒業生との関係強化を図った。 ・卒業生アンケート回収率14.6% (前年比3.1ポイントダウン)</p>		
	IV	<p>・計画通り開催 ・3年ぶりに対面で開催した。 出席保護者数：170名(第2会場も使用)</p>	IV	<p>【年度計画42】 本学後援会総会に合わせて教育懇談会を開催する。教育懇談会では、学部等における教育状況等を保護者に報告するとともに、理事長・学長等との意見交換を行う機会を設けることにより、本学の教育活動の現状を理解し協力していただくとともに、保護者との連携強化に役立てる。</p> <p>「評価指標」 ・教育懇談会の実施と出席者数の状況</p>	IV	<p>・保護者の教育状況への理解を深めていただくために当年度より教育懇談会を「教育状況報告会」に変更するとともに、従来の全学部一括での説明から各学部・学科毎に別個に説明する形式に変更した。 ・出席保護者からは「丁寧な説明を聞ける」「質問がしやすい」、説明する教員からは「十分時間がとれ、保護者と近い距離で話ができる」と双方から好評で、保護者との連携強化を図ることができた。 ・教育懇談会の出席者数：127名(出席者は前年比ダウン)</p>		
	III	<p>・年度前半に組織変更があり「改善提言」、「改善計画シート」は作成できなかったが、いくつかの業務改善を実現し、経費削減、事務部の業務効率化を図った。 ・効果の大きい主な業務改善は以下の通り。 ・学位記授与式の保護者出席申込を電子化(郵送コストの削減、保護者への利便性向上) ・卒業アルバム購入申込のWeb化、クレジットカード決済の導入(購入希望学生の利便性向上、事務職員の業務効率化) ・新入生学生カードの電子化(郵送コスト削減、新入生の利便性向上、事務職員の業務効率化)</p>	III	<p>【年度計画43】 学生支援センター全職員が各自「改善提言」を検討し、改善計画シートを作成した上で、センターとして実行可能な提案を検討し、実行する。また、実行した取組は、次年度「評価レポート」を作成し、次年度以降の改善等に活用する。</p> <p>「評価指標」 ・改善提案、提案の実行及び次年度以降の改善の取組状況</p>	IV	<p>・学生支援センター所属職員3名中2名が退職・異動で交代し、業務のキャッチアップと維持に努めるのに精一杯で「改善を提言」できるレベルには至らず。 ・その状況下においても、新たに以下の取り組みを行った。 ①新入生学生証写真の電子データによる入学前取得の仕組みを導入し、各事務部の負担軽減、費用削減、発行早期化(学生サービスの向上)を図ることができた。 ②開学以来見直しされず他大学より大幅に低い水準だった各種証明書発行手数料の改定に取り組み、他大学並みの料金水準への引き上げを行い今後の大学収支改善に貢献した。</p>		